



平沢 匡朗

Masaaki HIRASAWA

チェンバロリサイタル

J. S. バッハ

ゴールドベルク変奏曲

BWV988 (全曲)

Joh. Seb. Bach
Golaberg - Variationen
BWV 988

Masaaki Hirasawa

2018年9月22日(土曜)午後2時開演

於:松本記念音楽迎賓館

料金:3000円(全自由席)

予約・お問い合わせ:

MASA企画(須貝)・(03) 3783 4536/E-mail:sugail003@s04.itscom.net

松本記念音楽迎賓館・URL:<http://ongakugeihinkan.jp>

不眠症の伯爵を慰めるために作曲されたという伝説のある「ゴールドベルク変奏曲」は、極めて愛らしい「アリア」に基づく30の変奏からなり、古今の鍵盤楽器のための最も大規模な作品であると共に、極めて情愛細やかな名作として知られています。

私がこの曲を取り上げたのは、31才の時のカザルスホールでのリサイタルにおいてでしたが、その後、様々な体験、音楽との出会いもあり、あれ以来22年が経ち、何かしら、自分の中で見えるもの、聞こえる響きが少しずつ変化し、自分の音楽の旅もだいぶ遠いところまで来たような気がいたします。あの時、仰ぎ見るような思いをピアノにぶつけて弾いていた、この名作を、改めて取り上げてみたい気持ちになりました。

この作品は、「アリア」に始まって、開始と同じ「アリア」で終わる、音楽の旅です。皆様に、バッハの「音楽旅路」、私自身の「音楽旅路」を味わって頂ければと願っております。



■平沢 匡朗(ひらさわ・まさあき)

桐朋学園大学卒業。福元さざれ、中山 靖子、渡邊 康雄、デートレフ・クラウスの各氏に師事。GPAダブリン国際ピアノコンクール特別賞受賞。日演連主催「えんれん」コンサート、横浜市新人演奏会等に出演。

堤俊作指揮ロイヤルチェンバーオーケストラ定期演奏会でのベートーヴェンの第4番、東京交響楽団とのモーツァルトの第24番など、各地でのピアノ協奏曲のソリストとして招かれたほか、ダブリン、ウィーン、東京など国内外においてのピアノリサイタル、NHK-FM『FMリサイタル』などの放送出演など、独奏者として幅広く活動している。2009年秋にはルーマニア・ブラショフ フィルハーモニー交響楽団とグリークのピアノ協奏曲を共演し、好評を博した。

ピアノ・ソロCDに『平沢匡朗 プレイズ モーツァルト』(2006年 9月レコード芸術誌準推薦)『平沢匡朗プレイズベートーヴェン』他多数あり、高い評価を得ている。

またチェンバロの演奏にも意欲を示し、2011年9月には日本フィルハーモニー交響楽団とバッハのブランデンブルク協奏曲第5番を演奏するなど、幅広く活動している。

室内楽奏者としても、イヴリー・ギトリス、トーマス・フェオドロフ、カリン・アダム、マルタ・カーデム=ミサク、瀬戸 瑤子、天満 敦子、木野 雅之、等のヴァイオリニスト、宮原 卓也、原田 茂生他の声楽家と共演するなど、各地で演奏活動を行っている。

最近の活動としては、モーツァルトのピアノソナタ全曲連続演奏《モーツァルトの旅路》(2013)、ピアノ、指揮の2役によるモーツァルトのピアノ協奏曲の演奏会(2014)などがある。2011年より、田園調布混声合唱団指揮者を務めている。

1996年より毎夏、ウィーン近郊の町、ホルン(Horn)における《Allegro Vivo・オーストリア国際室内楽音楽祭》に参加、コレペティトゥアおよびピアノ・マスタークラスを担当している。また、洗足学園大学講師として後進の指導にもあたっている。

松本記念音楽迎賓館

<http://ongakugeihinkan.jp/>

所在地:東京都世田谷区岡本2-32-15

電話:03-3709-5951

電車・バスご利用の方

ステンドグラスを目印にいらしてください。

東急田園都市線「二子玉川駅」よりバスを利用の場合

東急コーチ玉31成育医療センター行き※、

または玉32美術館行き

停留所「もみじが丘」または「岡本三丁目」下車

徒歩4~5分

小田急線「成城学園前駅」よりバスを利用の場合

東急バス都立01都立大学駅北口行き

停留所「岡本三丁目」下車 徒歩4~5分

